

<第五回 衣装について> (2024.01.20 インタビュー)

今回は、第五回ということで、「衣装について」というテーマで話を聞いてみました。

—聞き手：こんばんは。今回は衣装についてお伺いしたいと思います。マジックショーにおいて、前回の音楽と同様に、衣装は大切なものだと思います。マジックショーにおいて大切なものとして、「1 に衣装、2 に音楽、3、4 がなくて 5 にマジックテクニック」という、少し自虐的なフレーズがあるくらいです。今回は、衣装に関して、何かお考えはありますか？

—名誉会長：はい、こんばんは。衣装は大事なのは確かなんだけど、男性も女性も、あまりにもキラキラしすぎる衣装や、何かのパーティーに行くような派手な恰好でマジックを行う人が他の団体では見かけるんだけど、ちょっとあれはね。まあ、1 に衣装、2 に音楽とは言うんだけどね。衣装さえ良ければいいということでは決してないんでね。

—聞き手：たしかに、すごくキラキラで派手な人はいますね。

—名誉会長：また、衣装だけでなく、マジック道具を置くテーブルにも必要以上の飾りを行う人もいますよね。あれはちょっと場を間違えているような感じを受けるね。やはりマジック発表会として見せる以上は、マジックをメインに考えて欲しいね。せっかく一生懸命練習したマジックを披露するのに、衣装等で自分のマジックを殺してしまうのは非常にもったいないよね。そういった衣装は推奨できないんだよね。

—聞き手：確かにそうですね。

—名誉会長：例えば、ダブプロダクション(鳩だし)を行うには、燕尾服が必要だと思うんだよね。それはマジックのタネに関する部分もあるけど、それよりもやはりダブプロダクションマジックのもつ高級感や、白い鳩がでてくる清廉さ、そしてマジックを代表するような演目という意味では、トップマジシャンをイメージできる燕尾服が似合うと思う。もちろん、その人の目指すところにもよるんだけど。まあ、言いたいことは、演技にあった服装が必要ということだね。私もダブプロダクションを行う時は燕尾服だったよ。

—聞き手：ダブプロダクションを行うということは、鳩を飼っていたのですか？

—名誉会長：ええ、多いときで 30 羽程飼っていたよ。育てるのは結構大変だね。

—聞き手：今度、その話も聞きたいです！

—名誉会長：そうだね。話を戻すと、衣装はこれではなくてはいけないという決まりはないけど、演技に合った衣装を着てもらいたいということだね。それが一番だね。

—聞き手：他には何かありますか？

—名誉会長：衣装とは少し話が違うが、先ほど話した、マジックテーブルについてもうひとつ伝えたい。マジックショーで、タネを舞台上のテーブルに仕込んでおくことの場合について。もちろん、マジックの流れや仕込む物にもよるけど、基本的には衣装に仕込むものは衣装に仕込んだ方がマジックはスマートに見える。ジャケットやベストを身に着けず、すごくシンプルで見栄えのいい衣装を着ているが、その代わり不自然にテーブルに何度も近づくとするのは、ちょっと違うという感じはするよね。あくまでもマジックがメインでいて欲しい。

—聞き手：確かに。それでは、衣装を優先したマジックになりますよね。

—名誉会長：そうだね。やはり、マジックをより不思議に見せるには、テーブルの陰から何かをこっそり取り出すのではなく、衣装から取り出す方がいいと思うんだよね。まあ一概にはいえないけどね。大切なことは、衣装が大切とはいえ、マジック披露する上で、より不思議に見せるような方法、よりお客さんに楽しんでもらう方法を常に考えて欲しい。せっかく 練習したマジックを、より生かす方法を考えてもらいたい。これは衣装だけでなくね。

—聞き手：わかりました。マジックに合った衣装、舞台演出ということですね。

—名誉会長：そうだね。先ほどのダブプロダクションに燕尾服もそうだけど、カードやロープマジックに対してはシックな衣装の方が合うことも多いし、食べ物や飲み物をテーマにしたマジックでは、スーツよりも似合う衣装があるだろうし。とにかく自分のマジックを生かす衣装を考えて欲しいね。

—聞き手：これは、ボランティアで、マジックを行う時も同じですか？

—名誉会長：そうだね。スーツを着るのが一般的だろうが、普段、会社に来て行くようなスーツではなく、マジック専用のドレスアップしたスーツというのはあった方がいいね。もちろん、演技に合った衣装というのが大前提だけどね。

—聞き手：よくわかりました。どうもありがとうございました。

(終わり)

※次回は発表会で起きたトラブルについて を予定しています。